

浜松キャンパス内で

春休み学童保育(試行)を行なっています！

3月22日(火)に開所式を行ないました。

学童保育は、本学では初めての試みです。浜松キャンパスでの学童保育のニーズ(平成21年度学内保育ニーズ調査結果)をふまえて、春休みに試行的に8日間、実施しています。今回は試行ということで、浜松市の公設の放課後児童会とは少々異なる部分があり、児童の受け入れについては、原則本学教職員・学生の子どもたちを対象としつつ、基準の枠を広くして一部地域の方々のお子さんも受入れています。

今回の学童保育を次の夏休みに続けていくためのステップとしていきたいと考え、取り組んでおりますし、経験豊かな指導員さんたちのもとで、子どもたちは静大の特色を活かしたプログラムを楽しみながら、元気に過ごしています。

最後に今回の学童保育を実施するにあたり、浜松キャンパスの多くの皆さまからご協力・ご支援をいただきましたことをお礼申し上げます。引き続き、ご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

開設期間:平成23年3月22日(火)～25日(金)

3月28日(月)～31日(木)

時間:8時00分から18時30分まで

開所式 伊東学長のお話



開所式 船橋副学長のお話



3月23日(水)、静岡新聞朝刊・県内総合版に掲載されました。

平成23年3月23日 静岡新聞朝刊

おはぎ作りを楽しむ子どもたち
＝浜松市中区の静岡大浜松キャンパス

静岡大浜松キャンパス



学内に児童保育所

静岡大は22日、浜松市中区の同大浜松キャンパス内に、大学関係者も周辺の子どもを受け入れる児童保育所を開設した。同大初の試みで、同大による全国の国公私立でも例目。共働きや女性教授の登用などが増える中、教職員が安心して働ける職場環境を目指す。春休み期間中に試行的に設置し、今回の状況を踏まえて春休み期間中の設置を検討していく。

県内初 共働きを支援

同大の教職員を対象に昨年度行った調査で、同キャンパスで共働きの保護者を中心に児童保育のニーズが高かった。科学技術振興機構（JST）の支援を受け、開設が決まった。登録児童は年長児、小学生20人、大学関係者の子も18人のほか地域から集まった11人を受け入れた。指導員は10年以上指導経験のある高井みよ子さん（69）と補助指導員3人を採用した。初日はコミュニケーションの場、おはぎづくりが行われ、もち米きな粉を付けたおあんこを載せたりして楽しんだ。今後は同大の教員による理科や工作教室を行うなど、大学ならではの体験も計画している。

伊東宏学長は「女子学生の比率が高くなってきている。今後、女性教授を増やしていきたいと考えている。環境づくりは欠かせない。継続していきたい」と語った。

児童保育は31日まで（土日を除く）。利用料は8日間1万円、今回の募集は既に終了している。

研究所の小南裕子准教授は「送り迎えの時間を以前ほど気にしないで済むし、安心感もある。ありがたい」と話した。